

社会生活基本調査について ー平成18年結果からー (その2 生活行動)

平成18年社会生活基本調査結果に係る京都市独自集計のうち、先月紹介した「生活時間」に関する概要に続き、今回は、「生活行動」について、その概要を紹介します。

なお、このページでは、過去1年間(平成17年10月20日～平成18年10月19日。以下同じ。)に該当する種類の活動を行った15歳以上の人の15歳以上人口に占める割合(行動者率)に関する結果を表しています。

1 インターネットの利用

過去1年間にインターネットを利用した人の行動者率は61.6%で、男性が64.6%、女性が58.9%となっており、仕事や学業での利用を含めた前回の平成13年調査結果(平成18年は仕事や学業での利用は含まない。)と比べても、全体で7.9ポイント、男性が5.5ポイント、女性が9.9ポイント上昇しています。

全国結果と比べると、全体で2.5ポイント、男性は2.0ポイント、女性は3.1ポイント京都市が高くなっています。

男女別にみると、男性が女性より5.7ポイント高くなっており、就業状況別と併せてみると、男女共に有業者の7割前後、無業者の5割近くはインターネットを利用しています。また、最も高い男性有業者と最も低い女性無業者では23.7ポイントの差があります。

種類別にみると、男女共に「電子メール」が5割を超えて最も高く、次いで「情報検索及びニュース等の情報入手」と続き、次いで男性では「画像・動画・音楽データ、ソフトウェアの入手」、女性では「商品やサービスの予約・購入、支払いなどの利用」となっています。また、全種類において男性の利用が女性より高くなっています。(次頁表-2参照)

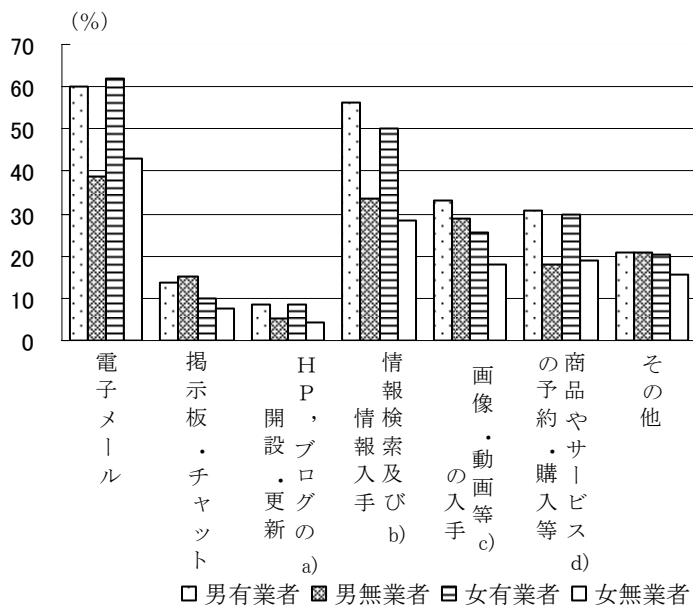
表-1 「インターネットの利用」行動者率 (平成18年, 13年)

(単位 %)

	総数		
	男	女	
平成18年	61.6	64.6	58.9
13年	53.7	59.1	49.0
18年(全国)	59.1	62.6	55.8
	有業		
平成18年	70.4	71.0	69.5
13年	59.8	63.4	55.0
18年(全国)	68.1	68.9	67.1
	無業		
平成18年	47.5	47.9	47.3
13年	44.5	47.2	43.2
18年(全国)	43.7	43.8	43.6

注) 携帯電話, PHSなどを使用し, 利用する場合を含む。
平成13年は仕事や学業での利用を含む。

図-1 男女, 就業状態, 「インターネットの利用」の種類別行動者率



注) 行動の種類名の省略 (図-1, 表-2)
a) HP, ブログの開設・更新…ホームページ, ブログの開設・更新
b) 情報検索及び情報入手…情報検索及びニュース等の情報入手
c) 画像・動画等の入手…画像・動画・音楽データ, ソフトウェアの入手
d) 商品やサービスの予約等…商品やサービスの予約・購入, 支払いなどの利用

表-2 男女, 就業状態, 「インターネットの利用」の種類別行動者率

(単位 %)

	総数	就業状態		男	就業状態		女	就業状態	
		有業	無業		有業	無業		有業	無業
電子メール	53.5	60.8	41.6	54.2	60.1	39.0	52.8	61.7	43.0
掲示板・チャット	11.4	12.1	10.2	14.2	13.8	15.3	8.8	10.0	7.5
HP, ブログの開設・更新 a)	7.1	8.5	4.7	7.8	8.7	5.4	6.4	8.3	4.3
情報検索及び情報入手 b)	44.6	53.6	30.2	50.0	56.3	33.5	39.8	50.1	28.4
画像・動画等の入手 c)	26.6	29.5	21.9	31.8	32.9	28.9	21.9	25.3	18.1
商品やサービスの予約等 d)	25.8	30.3	18.5	27.2	30.8	17.8	24.6	29.7	18.9
その他	19.4	20.6	17.4	20.8	20.8	20.7	18.1	20.3	15.6

2 学習・研究

過去1年間に何らかの「学習・研究」を行った人の行動者率は37.7%で、男性が38.8%、女性が36.7%となっており、平成13年と比べると全体で3.3ポイント、男性が2.6ポイント、女性が3.9ポイント低下しています。

全国結果と比べると、全体で2.7ポイント、男性は4.3ポイント、女性は1.3ポイント京都市が高くなっています。

男女別にみると、男性が女性より2.1ポイント高くなっており、就業状態別と併せてみると、有業者ではあまり男女の差がなく、無業者では男性が1.3ポイントとわずかに高くなっています。また、最も高い女性有業者と最も低い女性無業者では9.7ポイントの差があります。

種類別にみると、全体では「芸術・文化」が最も高く、次いで「パソコンなどの情報処理」、「家政・家事」と続いています。男性では「パソコンなどの情報処理」が最も高く、次いで「芸術・文化」、「人文・社会・自然科学」と続き、女性では「家政・家事」が最も高く、次いで「芸術・文化」、「外国語」と続いています。

表-3 「学習・研究」行動者率
(平成18年, 13年)

(単位 %)

	総数	性別	
		男	女
平成18年	37.7	38.8	36.7
13年	41.0	41.4	40.6
18年(全国)	35.0	34.5	35.4
	有業	性別	
		男	女
平成18年	41.2	41.1	41.3
13年	41.4	41.1	41.9
18年(全国)	37.9	36.3	40.0
	無業	性別	
		男	女
平成18年	32.1	32.9	31.6
13年	40.2	42.2	39.4
18年(全国)	30.0	29.1	30.5

表-4 男女, 就業状態, 「学習・研修」の種類別行動者率

(単位 %)

	総数	就業状態		男	就業状態		女	就業状態	
		有業	無業		有業	無業		有業	無業
外国語	11.0	12.7	8.4	10.3	10.9	8.9	11.7	14.9	8.1
パソコンなどの情報処理	12.0	13.8	8.9	16.0	17.4	12.1	8.3	9.3	7.2
商業実務・ビジネス関係	7.8	10.6	3.2	12.0	14.5	5.6	3.9	5.7	1.9
介護関係	3.9	4.0	3.7	2.9	2.6	3.6	4.8	5.8	3.8
家政・家事	11.2	10.4	12.4	5.1	3.9	8.2	16.7	18.5	14.7
人文・社会・自然科学	10.4	10.5	10.2	12.6	12.5	12.8	8.4	7.9	8.8
芸術・文化	14.7	15.1	13.9	13.0	13.4	12.0	16.2	17.4	14.8
その他	7.6	7.6	7.5	8.1	7.1	10.8	7.0	8.2	5.7

3 スポーツ

過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った人の行動者率は66.0%で、男性が73.1%、女性が59.5%となっており、平成13年と比べると全体で7.4ポイント、男性が6.7ポイント、女性が8.3ポイント低下しています。

全国結果と比べると、女性は、あまり差がなく、男性では4.1ポイント、全体でも2.1ポイント京都市が高くなっています。

男女別にみると、男性が女性より13.6ポイント高くなっており、就業状態別と併せてみても、有業者は10.3ポイント、無業者は16.7ポイント男性が高くなっています。また、最も高い男性有業者と最も低い女性無業者では、17.8ポイントの差があります。

種類別にみると、男女共に「ウォーキング・軽い体操」が4割前後で最も高く、次いで「ボウリング」、「水泳」と続いています。また、男女別と併せてみると、男性の「つり」や「ゴルフ」、「野球」の高さが目立っています。

表-5 「スポーツ」行動者率
(平成18年, 13年)

(単位 %)			
	総数	性別	
		男	女
平成18年	66.0	73.1	59.5
13年	73.4	79.8	67.8
18年(全国)	63.9	69.0	59.1
有業			
平成18年	68.8	73.4	63.1
13年	76.7	80.7	71.5
18年(全国)	67.0	70.5	62.3
無業			
平成18年	61.4	72.3	55.6
13年	68.3	77.3	64.2
18年(全国)	58.8	64.9	55.8

表-6 男女、「スポーツ」の主な種類別行動者率

(単位 %)

	野球	バレーボール	サッカー	卓球	テニス	バドミントン	ゴルフ	ボウリング
総数	7.0	4.8	3.9	6.2	5.8	4.2	7.9	18.0
男	11.4	3.5	6.8	8.2	6.6	3.4	12.4	19.6
女	2.9	5.9	1.3	4.5	5.2	5.0	3.8	16.6
	つり	水泳	スキー・ スノーボード	登山・ ハイキング	サイクリング	ジョギング・ マラソン	ウォーキング・ 軽い体操	器具を使った トレーニング
総数	8.2	14.1	5.2	12.5	12.1	6.9	38.8	10.4
男	13.0	15.6	6.0	12.9	13.2	9.2	36.5	13.1
女	3.9	12.9	4.5	12.2	11.0	4.8	40.9	7.9

4 趣味・娯楽

過去1年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った人の行動者率は85.5%で、男性が86.6%、女性が84.5%となっており、平成13年と比べると全体で3.6ポイント、男性が2.9ポイント、女性が4.3ポイント低下しています。

全国結果と比べると、女性は、あまり差がなく、男性では1.9ポイント、全体でも1.1ポイント京都市が高くなっています。

男女別にみると、男性が女性より2.1ポイント高くなっており、就業状態別と併せてみると、有業者は女性が、無業者は男性が高くなっています。また、最も高い女性有業者と最も低い女性無業者では14.3ポイントの差があります。

種類別にみると、男女共に「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」が5割前後で最も高く、次いで男性では「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞」、「趣味としての読書」と続き、女性では「趣味としての読書」、「映画鑑賞」と続いています。

(次頁表-8参照)

表-7 「趣味・娯楽」行動者率
(平成18年, 13年)

(単位 %)			
	総数	性別	
		男	女
平成18年	85.5	86.6	84.5
13年	89.1	89.5	88.8
18年(全国)	84.4	84.7	84.1
有業			
平成18年	89.8	88.6	91.3
13年	90.3	89.7	91.0
18年(全国)	87.4	86.8	88.3
無業			
平成18年	78.5	81.3	77.0
13年	87.4	88.9	86.7
18年(全国)	79.4	78.8	79.7

表-8 男女、「趣味・娯楽」の主な種類別行動者率

(単位 %)

	スポーツ観覧	美術鑑賞	映画鑑賞	CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞	趣味としての料理・菓子作り
総数	17.6	26.5	38.7	50.5	42.7	16.8
男	21.7	22.2	33.0	49.1	43.0	5.5
女	13.9	30.4	43.9	51.8	42.5	27.2
	園芸・庭いじり・ガーデニング	写真の撮影・プリント	趣味としての読書	カラオケ	テレビゲーム・パソコンゲーム	遊園地、動植物園・水族館などの見物
総数	28.0	29.5	43.9	33.7	30.8	35.1
男	20.3	28.5	37.8	32.7	36.6	29.5
女	35.1	30.4	49.5	34.6	25.6	40.3

5 ボランティア活動

過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人の行動者率は22.6%で、男性が22.4%、女性が22.8%となっており、平成13年と比べると全体で1.5ポイント、女性が3.9ポイントそれぞれ低下しましたが、男性は1.2ポイント上昇しています。

全国結果と比べると、「スポーツ」などの行動とは逆に、全体で3.4ポイント、男性は2.7ポイント、女性は4.2ポイント京都市が低くなっています。

男女別にみると、両者の間にあまり差はなく、就業状態別と併せてみても、有業者は女性、無業者は男性が高くなっていますが、大きな差はみられません。

種類別にみると、男女共に「まちづくりのための活動」が最も高く、男性では「安全な生活のための活動」、女性では「子供を対象とした活動」と続き、「自然や環境を守るための活動」が男女共にそれらに続いています。

表-9 「ボランティア活動」行動者率
(平成18年、13年)

(単位 %)

	総数		
	男	女	
平成18年	22.6	22.4	22.8
13年	24.1	21.2	26.7
18年(全国)	26.0	25.1	27.0
	有業		
	男	女	
平成18年	22.1	21.5	23.0
13年	23.3	21.7	25.5
18年(全国)	26.8	25.6	28.5
	無業		
	男	女	
平成18年	23.3	24.7	22.6
13年	25.4	19.8	27.9
18年(全国)	24.8	23.5	25.4

表-10 男女、「ボランティア活動」の種類別行動者率

(単位 %)

	総数	健康や医療サービスに関係した活動	高齢者を対象とした活動	障害者を対象とした活動	子供を対象とした活動	スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動
総数	22.6	3.1	4.1	1.5	5.2	3.7
男	22.4	3.3	2.7	1.2	3.7	4.3
女	22.8	2.9	5.4	1.9	6.5	3.1
	まちづくりのための活動	安全な生活のための活動	自然や環境を守るための活動	災害に関係した活動	国際協力に関係した活動	その他
総数	7.5	4.9	5.5	1.2	1.5	2.4
男	8.1	6.1	5.2	1.7	0.5	2.8
女	6.9	3.9	5.8	0.7	2.3	2.1

6 旅行・行楽

過去1年間に何らかの「旅行・行楽」を行った人の行動者率は75.1%で、男性が73.3%、女性が76.7%となっており、平成13年と比べると、全体で8.0ポイント、男性が10.1ポイント、女性が6.1ポイント低下しています。

全国結果と比べると、全体及び男女共、わずかに京都市が低くなっています。

男女別にみると、女性が男性より3.4ポイント高くなっており、就業状態別と併せてみても、有業者は7.6ポイント、無業者は2.8ポイント女性が高くなっています。また、最も高い女性有業者と最も低い男性無業者では17.3ポイントの差があります。

種類別にみると、男女共に「行楽（日帰り）」が6割前後で最も高く、次いで「観光旅行（国内）」、「帰省・訪問などの旅行（国内）」と続き、以下、男性は「業務出張・研修・その他（国内）」、女性は「観光旅行（海外）」と続いています。

表-11 「旅行・行楽」行動者率
(平成18年, 13年)

(単位 %)

	総数	性別	
		男	女
平成18年	75.1	73.3	76.7
13年	83.1	83.4	82.8
18年(全国)	75.9	74.2	77.4
	有業	性別	
		男	女
平成18年	79.4	76.0	83.6
13年	87.0	86.7	87.3
18年(全国)	80.3	78.4	82.8
	無業	性別	
		男	女
平成18年	68.1	66.3	69.1
13年	77.2	74.1	78.5
18年(全国)	68.4	61.7	71.7

表-12 男女, 就業状態, 「旅行・行楽」の種類別行動者率

(単位 %)

	総数	就業状態		性別					
		有業	無業	男	女				
					有業	無業		有業	無業
行楽(日帰り)	59.8	63.8	53.2	59.0	62.6	49.6	60.5	65.3	55.2
観光旅行(国内)	50.0	52.8	45.5	46.8	49.8	39.2	52.9	56.5	48.8
帰省・訪問などの旅行(国内)	26.8	30.0	21.7	24.9	26.8	20.0	28.6	34.1	22.6
業務出張・研修・その他(国内)	12.1	16.1	5.6	18.3	21.4	10.1	6.5	9.4	3.2
観光旅行(海外)	10.3	12.8	6.3	8.2	9.4	4.9	12.3	17.0	7.1
業務出張・研修・その他(海外)	2.8	4.2	0.5	4.2	5.6	0.4	1.6	2.5	0.6